

地域を守る士気高らかに

つがる市消防団出初式



福島市長から服装の点検を受ける消防団員



感謝状を受け取る前車力地区団長の二川原一さん



無火災を祈願する箱田消防団長

つがる市内の火災発生件数

年	建物	林野	車両	その他	計
平成24	11	7	1	13	32
平成25	15	2	4	1	22
平成26	8	5	1	4	18
平成27	18	3	2	3	26
平成28	6	2	3	6	17



勇壮な分列行進を披露

新春恒例の「つがる市消防団出初式」が1月8日、市役所周辺で開催されました。

式に先立ち、福島市長や箱田雄消防団長をはじめとする消防団幹部らが三新田神社を訪れ、今年一年の無火災を祈願しました。

すつきりとした冬晴れとなったこの日、出初式には市内56分団約1100人の消防団員が参加。市役所周辺に集結した団員らは、福島市長から服装点検を受けた後、市役所前の市道で勇壮な分列行進を披露しました。

続いて松の館で行われた式典では、福島市長が「東日本大震災後、消防団が担う役割の重要性は高まっています。市民が安全で安心して暮らせるつがる市の構築のため一層の尽力をお願いします」と式辞。続いて箱田消防団長が「継続は力なり。日頃から機械器具の点検整備を徹底し、訓練や行事には積極的に出勤するようお願いいたします」と訓示を述べました。

また、日頃の火災予防活動のほか農作物の夜間パトロールを自発的に行った森田第3分団と、県消防操法大会に出場した柏第4分団の団員に箱田消防団長から団長表彰、在職30年以上の勇退団員に福島市長から感謝状がそれぞれ手渡され、最後は会場の全員による万歳三唱で地域を守る決意を新たにしました。

調べる力・発信する力を身につけよう 市立図書館「アクティブ・キッズ・クラブ」開講

1月21日、市立図書館で「図書館を使った調べる学習会」つがる市立図書館「アクティブ・キッズ・クラブ」開講式が開催され、市内の小学生9人が活動をスタートさせました。

これは、子どもたちが本を使って調べる力と学習習慣を身に付け、その成果を発信する力を養ってもらおうと市内の小学3～5年生を対象に始まった企画。自分でテーマを決めて調べる「自由研究」をスケールアップしたもので、1月～9月の長期間でじっくり行い、まとめた作品は「第一回つがる市立図書館を使った調べる学習会コン



図書館内の案内を受ける児童たち

クール」で審査。最優秀作品は全国版コンクールに応募します。

開講式では、子どもたちや講師の自己紹介の後、図書館スタッフが館内を案内。講師の一人である教員OBの竹浪誠也先生は「一番大事なのはテーマ。興味があるものをいくつか探して、その中から一つのテーマを選んでください」とアドバイスしました。柏小の葛西奈奈さん（4年）は「動物が大好きなので、動物に関するテーマで調べたい。疑問に思ったことがわかっていくのが楽しみです」と抱負を述べていました。



児童にアドバイスする竹浪先生

地域の縄文文化を学び広く伝える

2017「縄文語り部教室」

縄文文化の魅力などを語る「2017縄文語り部教室」が1月21日、松の館で開催され、市民ら約40人が参加しました。

これは、「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の世界文化遺産登録推進の機運を高めるため、NPO法人つがる縄文の会（川嶋大史理事長）が主催。教室では、同会の最年少会員であり、市内の高齢者施設で介護職員として勤務する野呂真智さん（22歳）が「社会福祉の観点から見た縄文遺跡まつり」と題して、地元館岡地区で行われている亀ヶ岡遺跡を活用した地域活性化についての考察などを発表しました。野呂さんは「遺跡のPR方法や観光に対する意見など、住民同士で自由に語り合う機会を増やすことが理想的な地域づくりにつながる」と話していました。



発表する野呂さん



佐野さんが最新の動向を紹介

続いて市教育委員会の佐野忠史学芸員が、同縄文遺跡群をめぐる最新の動きなどを紹介。佐野さんは「縄文遺跡群は、近年の調査で考古学的な確認がしっかりされており、価値も保存状態も十分。それを効果的に発信するためには、地元の方々にもっと遺跡のを知ってもらいたい。協力してPRしていきましょう」と呼びかけていました。